

令和元年6月 発生事故

- 被害事故 2件 進光陸送(株)・ヨシアース(株)
 - ・対向車線の車の中から出てきた車両が、自車右側に接触。(進光・6/5・14:08)
 - ・交差点で一時停止したところ、後続の車両が自車に追突。(ヨシアース・6/29・11:46)
- 加害事故 1件 杉崎陸送(有) 6/17(月) 8:29発生
 - 一般道の右カーブを走行中、双方の過失により対向車と接触したもの。

第42回「オールチヨダ安全大会」を開催(6/15)

チヨダグループの更なる結束と輸送品質の向上を！



▲開会の挨拶で水野社長から、「我々は、公共の道路を使わせて頂き仕事をしている」ということを忘れず、常に謙虚な姿勢で運転してほしい。」等と、訓示があった。



▲写真【左】ご祝辞を頂戴した日野自動車・豊島副部長殿
【中央】安全講話を頂戴した日野署・大瀬戸交通課長殿
【右】ご講話を頂戴した東京海上日動火災・牛嶋課長殿



▲大会には多くの管理者・乗務員が参加した



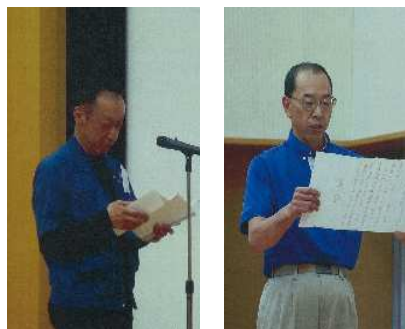
▲無事故継続乗務員表彰



▲無事故マラソン(陸送)表彰



▲無事故マラソン(貨物)表彰



▲答辞 皆川 浩壽殿 ▲安全宣言 米山 晃 殿

6月15日(土)、21世紀センターにおいて「第42回オールチヨダ安全大会」が開催されました。本大会は、無事故・無災害を誓うとともに、グループの更なる結束力を高めることを目的として開催されたものです。

当日は、朝からあいにくの雨模様の中、全国から大勢の皆様にお集まり頂き、日野自動車様からご祝辞を、警視庁日野警察署様、東京海上日動火災保険様から、それぞれご講話を頂戴しました。受講された皆様には、安全についての意識を高める良い機会としていただければ幸いです。

また、無事故継続乗務員や無事故マラソン完走チームの表彰式も執り行われ、参加者総数351名の大会は盛会のうちに閉会となりました。この「オールチヨダ安全大会」を機に、更なる輸送品質の向上に努めましょう。

令和元年6月の優良ドライバー

ドライブレコーダー評価点数 上位者

- 1位 丸一ロジテック(株) 桐山崇之 さん(74点)
- 2位 関東車輛(株) 綾部 浩 さん(74点)
- 3位 ヨシアース(株) 野手幸夫 さん(73点)
- 4位 (有)丸 天 落合哲也 さん(73点)

※ 同点数の場合は、走行距離の長い方を上位とします。

※ 月間走行距離 1,000km以上の乗務員を対象とします。



私の交通安全

(株)四国ロジテック 瀬川 哲夫 さん(陸送)



- Q 安全運転の心構えを教えてください。
A 「平常心」を保つよう心掛けています。嫌な事とか、時間の余裕がない時こそ、より運転に集中しています。
- Q 趣味を教えてください。
A バイク(ハーレー)でツーリングをしたり、仲間でキャンプ等を楽しんでいます。気分転換には最高です。
- Q 尊敬する人物を教えてください。
「織田信長」です。統率力があり、新しい視点を持っていると思います。
- Q ご自分の長所と短所を自己分析してください。
A 自分では責任感と行動力はあると思います。また、常にお客様や他の社員と、より良い接し方を考えて行動するようにしています。短所は、人よりせっかちなところがあります。自覚し、反省しています。
- Q 最後に、同僚・後輩に対してひと言お願いします。
A 一人ひとりが、会社・組織の中での、自分の立ち位置を良く考えた行動をとれば、より良い職場になり、事故も減少させられると思います。

雨の日の走行に気をつけて欲しいこと

梅雨入りが遅れていた西日本も、6月下旬に梅雨入りとなり、7月は、雨の日が多いとの予報が出ています。

雨の日は、次の3点に注意して運転をしましょう！

- ①泥はね運転に注意！
泥はね運転は道路交通法違反です。これに違反すると、反則金が課せられることとなります。雨の日は、スピードを落として水たまりを避けるなど、周囲に迷惑をかけない安全運転に心掛けましょう。



- ②スリップ事故に注意！
雨が降り、路面が濡れている状態にもかかわらず、晴天時と同じようなスピードで走行すると、スリップするおそれがあります。雨天時は、いつもよりスピードを落とした運転を心掛けましょう。
- ③濡れることを嫌がる歩行者に注意！
雨の降り始めは、歩行者の多くが雨に濡れたくないという気持ちになります。特に、傘を持たない歩行者の急な動きに注意しましょう。

故事・ことわざ から学ぶ

危ない事は怪我のうち(あぶないことはけがのうち)

【意味】危険な行為や危険な場所は、怪我

そのものであるということで、最初から用心していれば問題ないということ。

【解説】運転中の危険な行為は、まさに怪我(事故)に結びつきます。また、危険な場所を通るときも、怪我(事故)に遭う可能性が高くなります。危険な行為を行ったり、危険な場所を通る時は、怪我と同じと理解しておくことが大切です。

しかし、ドライバーの中には自分が危険な行為を行っているにもかかわらず気付かない人や、漫然と運転していて危険な場所とは気付かない人がいます。危険感受性を高めて、危険な行為や場所を感知する能力を持ちましょう。



編集後記

今年は、梅雨らしい天候が続いており、「梅雨明け」が待ち遠しい今日この頃です。しかし、梅雨が明けると、更に厳しい夏がやってきます。

昔は、扇風機やうちわで涼しさを感じていましたが、近年の猛暑は、クーラーなしでは生命の危険すら感じます。来年、夏の「東京五輪」は楽しみですが、屋外競技は心配でもあります。

